

中国 : 2015 年の太陽光発電導入目標を 15GW と設定¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

国家能源局は、今年の太陽光発電導入目標を 15GW と設定した模様である²。内訳は、ユーティリティ規模のグリッド連系太陽光発電が 8GW、分散型太陽光発電が 7GW で、分散型太陽光発電の内ルーフトップ太陽光発電が 3.15GW となっている。

2014 年の太陽光発電導入目標は 14GW で、その内ユーティリティ規模のグリッド連系太陽光発電が 6GW、分散型太陽光発電が 8GW であった。実績統計は現在集計中で最終結果はまだ出ていないが、全体の導入量は 10GW を下回り³、分散型太陽光は約 2.3GW と推定されている。

中国の太陽光発電累積導入量は 2010 年末 800MW に留まっていたが、2011 年に太陽光発電買取制度が開始されて以来、2.5GW (2011 年)、3.5GW (2012 年)、13GW (2013 年) と導入量が急速に増加し、2013 年末の累積導入量は約 19.4GW に達している。

中国の太陽電池産業は世界一の生産能力⁴を持つまでに成長したが、生産能力が過剰になり、また、世界的な需要低迷と中国製品に対する米国と EU の反ダンピング問題などに直面している。このため 2013 年、国務院は「太陽光産業の健全な発展の促進に関する若干の意見」を発表し、今後 3 年間で国内の太陽光発電導入を大幅に増やす計画を発表した。2013 年以降の太陽光発電導入量の増加は国内需要喚起の政策によるところが大きい。

また、分散型太陽光発電の導入を推進する方針も打ち出され、昨年 9 月、国家能源局は従来 6MW 以下の設備に限られていた分散型太陽光発電に対する優遇策の適用範囲を 20MW にまで広げる政策を発表した。これによって農業不適地、海岸、池などに地上設置型の大型分散型太陽光発電設備の設置が可能となっている。

本年 1 月、中国の投資銀行である China International Capital Corporation (CICC) は、「招商銀行 (China Merchants Bank : CMB) 及び中国工商銀行 (Industrial and Commercial Bank of

¹ 本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業 (海外省エネ等動向調査)」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

² pv magazine および PV Tech 情報。2 月 13 日時点で、能源局のホームページ上に正式発表はされていないが、近々発表される見込み。

³ 能源局は各省の太陽光資源量とグリッド容量に基づき、各省への導入割当量を設定している。地方政府はこの導入割り当て達成に必死であり、12 月に駆け込みで建設された 2 - 3GW の太陽光発電設備が、現在、系統連系中である。これをいれると 2014 年の導入実績は 14GW 近くになるとの見方もある。

⁴ 2012 年時点の中国の太陽電池の生産能力は約 35GW と推計され、世界全体の需要(29GW; REN21 の推計)を上回る。

China Limited : ICBC) からの援助も含め、分散型太陽光発電に対する国の優遇政策が功を奏し、分散型太陽光発電は昨年よりも増加し、その結果、2015 年の太陽光発電全体の導入目標量 (15GW) は達成できる」との予想を発表している。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp